



ドビュッシー

C. Debussy

子供の領分 Children's corner

グラドゥス・アド・パルナッスム博士 Doctor Gradus ad Parnassum

ジャンボの子守歌 Jimbo's Lullaby

人形のセレナード Serenade for the Doll

雪は踊る The Snow is Dancing

小さな羊飼ひ The Little Shepherd

ゴリウヅのケーキウォーク Golliwog's Cakewalk

ベルガマスク組曲 Suite Bergamasque

前奏曲 Prélude

メヌエット Menuet

月の光 Clair de Lune

パスピエ Passepié

喜びの島 L'isle Joyeuse

ショパン

F. Chopin

- バラード 第1番 短調 Op.23 Ballade No.1 in G minor Op.23
 バラード 第2番 長調 Op.38 Ballade No.2 in F major Op.38
 バラード 第3番 変イ長調 Op.47 Ballade No.3 in A-flat major Op.47
 バラード 第4番 短調 Op.52 Ballade No.4 in F minor Op.52

2017年 日本公演スケジュール

5月14日(日)	兵庫県立芸術文化センター KOBELCOホール ※	主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
5月15日(月)	東京文化会館大ホール ※	主催：ジャパン・アーツ
5月17日(水)	東京芸術劇場コンサートホール	主催：ジャパン・アーツ
5月19日(金)	入善町民会館(コスモホール)	主催：公益財団法人入善町文化振興財団
5月21日(日)	横浜みなとみらいホール ※	主催：ジャパン・アーツ

※共演：エサ・ベッカ・サロネ指揮／フィルハーモニー管弦楽団

原 明美 (音楽評論家)
Akemi Hara

ドビュッシー：子供の領分

フランスの作曲家クロード・アシル・ドビュッシー(1862～1918)は、音楽の分野に印象主義を確立させたと同時に、ロマン派から近代にかけての橋わたし的な役割も果たし、音楽史上ユニークな位置を占めている。彼は、繊細かつ鋭敏な感性によって、水や光などの自然の世界を、ピアノ曲のなかで独自にイメージした。なお、印象主義(印象派)とは、美術の分野で用いられていた言葉だが、その名称の発端となったのは、フランスの画家モネの描いた「印象 日の出」という絵画である。

1906年から1908年にかけての間に作曲され、全部で6曲から成る「子供の領分」は、ドビュッシーが愛娘のクロード＝エンマのために書いた愛らしい組曲である。彼は、この娘のことをシュウシュウ(キャベツちゃん)と呼んで、かわいがっていたという。

第1曲「グラドゥス・アド・パルナッスム博士」 ムツィオ・クレメンティの作曲したピアノ練習曲集「グラドゥス・アド・パルナッスム(パルナッスム山への階段)」から標題をとった曲。この練習曲集の難しいパッセージに悪戦苦闘して、いやいやながらピアノを練習する子供の姿を、ユーモラスに描いている。

第2曲「ジャンボの子守歌」 子供が、一緒に眠る「ジャンボ」という象の名の人形のために、優しく子守歌を歌う。やがて子供自身も、眠りにおちてゆく。

第3曲「人形のセレナード」 ギターを想わせる伴奏に乗せて、セレナードが歌われる。

第4曲「雪は踊る」 窓の外から見える雪、雪が次々と舞いおろす情景が、幻想的に描かれる。

第5曲「小さな羊飼ひ」 おもちゃの羊飼ひの人形が、牧歌を奏でる。

第6曲「ゴリウヅのケーキウォーク」 陽気でユーモラスな1曲。ゴリウヅとは黒人の人形、ケーキウォークとはアメリカの黒人の音楽に基づくダンスをいう。

ドビュッシー：ベルガマスク組曲

4曲から成るこの組曲は、ドビュッシー初期のピアノ曲集の傑作に挙げられる。1890年に着手されたというが、現在ある形で出版されたのは1905年である。タイトルにある「ベルガマスク」とは、作曲者が留学中に訪れた北イタリアのベルガモ地方の舞曲「ベルガマスカ」に由来すると、従来は考えられてきた。一方、別の説として、ワトの描いたイタリアの仮面喜劇の絵 仮面に隠れて悦楽にふけた17～18世紀フランスの貴族文化へのノスタルジー ヴェルレーヌの詩集「華やかな宴」に含まれる「月の光」の一節にある「マスクとベルガマスク」という言葉を通して、ドビュッシーがイタリアの仮面喜劇に対して描いた幻想 一、といったつながりも指摘されている。

第1曲「前奏曲」 教会旋法などを用いた、堂々とした1曲。

第2曲「メヌエット」 デリケートなタッチが味わい深い。

第3曲「月の光」 月の光が水面に輝く光景を美しく描いたこの曲は、さまざまな編曲でも親しまれている。

第4曲「パスピエ」 元来は3拍子の舞曲である「パスピエ」を、ドビュッシーは4拍子で書き、新鮮な響きを印象づけている。

ドビュッシー：喜びの島

1904年に作曲されたこの「喜びの島」は、ピアノの華やかなテクニクが目を引きながら、幻想的な雰囲気と、喜びの表情を感じとれる1曲である。標題については、現ルーヴル美術館所蔵のワトの絵画「シテール島への船出」からヒントを得た、とする有力な定説がある。一方、イギリス海峡に浮かぶチャンネル諸島の一つでイギリス領の、ジャージー島と関連がある、とする説も知られている。1904年の夏にドビュッシーは、のちに妻となるエンマ・バルダックと共に、このジャージー島へ旅をした。

ショパン：バラード 全4曲

ポーランドのワルシャワ近郊に生まれたフレデリック・ショパン(1810～1849)は、39年間という短い生涯の後半を主にフランスで送り、祖国に帰ることなく世を去った作曲家である。彼の書き残した作品は、大半がピアノ曲だった。ショパンは、従来のジャンルないし様式について、それぞれの表現の可能性を深く追求し、その稀有な創作力から生み出された傑作の数々は、ピアノ音楽に新しい境地を開いた。

元来「物語詩」を意味する「バラード」は、文学の形式として古くから存在し、また、歌曲の分野でも用いられていたが、この名称を初めて器楽曲に採用した作曲家は、ショパンだったとされる。彼の残した4曲のバラードは、文学のバラードの持つ物語としての特色をふまえたうえで、音楽作品として様式化されているが、同じポーランド出身の詩人A.ミツキエヴィチの叙事詩にヒントを得て作曲された、とも考えられている。

バラード 第1番 ト短調 Op.23 1835年に完成され、ドウ・シュトゥックハウゼン男爵に献呈された。物語の始まりを想わせる序奏部で開始され、劇的な盛り上がりがあり印象深いバラードである。曲の構造については、序奏部・展開部・コーダの、それぞれの間に、二つの主題が、鏡像のように配置されている。

バラード 第2番 ヘ長調 Op.38 1839年に完成され、作曲家のR.シューマンに献呈された。ヘ長調とイ短調による対照的な二つの部分を軸に、A～B～A～B～コーダ、という構成で書かれている。

バラード 第3番 変イ長調 Op.47 1840年～41年に作曲され、P.ノイム娘に献呈された。曲の構造は、コーダを伴う一種のソナタ形式と考えられる。優美な主題が、効果的な転調を交えながら展開し、4曲のバラードのなかで最も明るい作風を印象づける。

バラード 第4番 ヘ短調 Op.52 1842年～43年に作曲され、C.N.ド・ロスチャイルド(ロートシルト)男爵夫人に献呈された。ソナタ形式に変奏曲とロンドの要素が加わったとみられる自由な形式で書かれている。二つの主題が変奏されてゆくクライマックスから、コーダに至るドラマティックな場面は、特に演奏効果が高い。

H.Matsuoのスタインウェイと歩み続けた技術力



スタインウェイとH.Matsuoの技術力が出会って、至高の音色が奏でられる。

どんなに完成されたピアノでも、満足のいく演奏を可能にするためには、

そのピアノが最高の状態に保たれていなければなりません。

松尾楽器商会は、スタインウェイのオーソリティとして、つねにピアノ技術の追求と研鑽に努めてきました。

一流のアーティストたちが絶えず演奏技術の向上に努めるように、私たちもまた、

それを支えるピアノ技術の向上に努力しています。

H.Matsuoの調律・調整・整音

「調律」ピアノの音の高さを合わせる調律作業

「調整」鍵盤を含むアクションメカニク(打弦機構)とペダルを最良の状態に調整する作業

「整音」ピアノの音色を決める整音作業

以上の作業をスタインウェイの特質に熟知した技術者が繊細、かつ精緻な感覚と洗練された技術力を駆使し、すべての工程に責任を持って取り組みます。

H.Matsuoのメンテナンス・修理

スタインウェイのピアノを10年、30年、50年…と、末永くご愛用いただけるために、すべてのお客さまのピアノの調律や定期点検、部分修理、オーバーホールなどの作業にあっています。H.Matsuoのピアノ工場は世界水準の技術力を有し、正確で精緻な作業がスタインウェイの至高の響きをいつまでも守り続けます。

H.Matsuoのアドバイス

ピアノは湿度や温度の変化などに対して影響を受けやすく、音色や演奏に支障を来すことがあります。またピアノの各部位はお客さまの使用頻度と比例して消耗、変化もしていきます。いつまでもスタインウェイをご愛用いただくため、お客さまの視点から、身近なケアのアドバイスをいたします。



<http://www.h-matsuo.co.jp/>

スタインウェイハープのことなら何でもカスタマーコールまで

0120-004-331

—— スタインウェイ&サンズ関東地区正規ディーラー・ライオン&ヒリー社日本総代理店 ——

H. Matsuo

株式会社 松尾楽器商会

H.Matsuo's Showroom

東京都千代田区有楽町1-5-1 日比谷マリンビルB1 (日比谷交差点角)

(平日) 11:00～20:00 (土・日) 11:00～19:00 水曜定休

Tel. 03-3539-1711